

建設経済分科会 会議記録

- | | | | |
|---|-----------|---|------------------|
| 1 | 期 | 日 | 令和 2 年10月 1 日（木） |
| | | | 午後 0 時58分 開会 |
| | | | 午後 2 時16分 閉会 |
| 2 | 場 | 所 | 第 3 委員会室 |
| 3 | 出 席 委 員 | | 委 員 長 浅田 徹 |
| | | | 副委員長 芦田 竹彦 |
| | | | 委 員 青山 憲司、上田 倫久、 |
| | | | 椿野 仁司、土生田仁志、 |
| | | | 松井 正志、村岡 峰男 |
| 4 | 欠 席 委 員 | | なし |
| 5 | 説 明 員 | | （別紙のとおり） |
| 6 | 傍 聴 議 員 | | なし |
| 7 | 事 務 局 職 員 | | 主幹兼総務係長 小林 昌弘 |
| 8 | 会議に付した事件 | | （別紙のとおり） |

建設経済分科会長 浅 田 徹

建設経済分科会 次第

日時：2020 年 10 月 1 日(木) 13:00～
場所：第 3 委員会室

1 開 会

2 分科会長あいさつ

3 協議事項

(1) 分担案件の審査について

第 108 号議案 令和 2 年度豊岡市一般会計補正予算（第 12 号）

第 133 号議案 令和 2 年度豊岡市一般会計補正予算（第 13 号）

4 その他

5 閉 会

建設経済委員会名簿(10/1)

=10/1建設経済委員会出席不要

2020年4月1日現在

【委員】

職 名	氏 名
委員長	浅 田 徹
副委員長	芦 田 竹 彦
委 員	青 山 憲 司
委 員	上 田 倫 久
委 員	椿 野 仁 司
委 員	土生田 仁 志
委 員	松 井 正 志
委 員	村 岡 峰 男

8名

【当 局】

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
環境経済部長	坂本 成彦	環境経済課長	午菴 晴喜		
環境経済部参事	小林 辰美	大交流課長	谷口 雄彦	大交流課参事	藤原 孝行
コウノトリ共生部長	川端 啓介	農林水産課長	柳沢 和男	コウノトリ共生課長	宮下 泰尚
		農林水産課参事	井垣 敬司	地籍調査課長	西谷 英
都市整備部長	澤田 秀夫	建設課長	富森 靖彦	建築住宅課長	山本 正明
都市整備部参事	河本 行正	都市整備課長	石田 敦史	都市整備課参事	北村 省二
城崎振興局長	熊毛 好弘	地域振興課参事	橋本 郁夫	城崎温泉課長	植田 教夫
竹野振興局長	瀧下 貴也	地域振興課長	榎本 啓一		
日高振興局長	小谷 士郎	地域振興課参事	吉田 政明		
出石振興局長	村上 忠夫	地域振興課参事	川崎 隆		
但東振興局長	羽尻 泰広	地域振興課参事	小川 一昭		
上下水道部長	米田 眞一	水道課長	谷垣 康広	水道課参事	和田 哲也
		下水道課長	石津 隆	下水道課参事	堀田 政司
農業委員会事務局		農業委員会事務局長	丸谷 祐二		

4名

【議会事務局】

職 名	氏 名
主幹兼総務係長	小林 昌弘

1名

計 13名

午後0時58分開会

○分科会長（浅田 徹） それでは、時間になりました。皆さんおそろいですので、ただいまから建設経済分科会を開会をいたします。

言わば継続審議というふうなことで、今回2つの議案について、今日はそれぞれさらに議論を深めていくというふうなことで、ちょっと変則的な形になりますけども、ただいまからひとつよろしくお願ひしたいと思います。

また、例のごとく委員の皆さん、また当局の皆さんにつきましては、要点を押さえて簡潔明瞭に行っていただき、スムーズな議事の進行、よろしくお願ひしたいと思います。

なお、発言につきましては、分科会長の指名の後、マイクを使用して課名、名字を名のってから行っていただきますよう、よろしくお願ひをしたいと思います。

それでは、まず、早速、分担案件の審査について入ります。

これより3、協議事項、（1）分担審査でございます。これは108号議案及び133号議案ということで、令和2年度豊岡市一般会計補正予算（第12号）ほか1件を一括議案としたいと思います。

第133号議案としましては、108号議案で提案されました子育て総合支援拠点等整備事業と生涯学習サロン整備事業に係る予算の財源更正でございます。既に分科会で審査を終えている108号議案を分科会で再度審査することについては、第133号議案が108号議案に対して重要事項の変更に関すること、予算決算委員会全体では議決していないことから、一事不再議には該当しないとしております。

両議案中、当分科会に審査を分担されましたのは、所管事項に係る歳入歳出予算の補正についてであります。

108号議案につきましては、既に説明を受けておりますので、本日は第133号議案について担当課から説明を受けたいと思います。

それでは、担当課、環境経済……（発言する者あ

り）133の説明。（「財源だけ」と呼ぶ者あり）財源、はい。

午菴環境経済課長、お願いします。

○環境経済課長（午菴 晴喜） それでは、133号議案につきまして環境経済課ということになりますけども、直接の事業費が今回あるわけではなくて、財源ということで、ふるさと納税を活用することでご説明をさせていただきたいと思います。

最初に、歳出が通例になるわけです。15ページ、14ページご覧いただきまして。

○委員（椿野 仁司） ちょっと待って、発言についてというような……。133号……。

○委員（村岡 峰男） 前の……並んだところが。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 15ページ。

○委員（松井 正志） 反応が遅い、反応が遅い。

○委員（椿野 仁司） 分科会で見たんや。

○委員（松井 正志） いやいや、本会議の中に入るとるんですけど。

○委員（村岡 峰男） 133号議案。

○委員（椿野 仁司） ありがとうございます。

○委員（芦田 竹彦） すみません、ありがとうございます。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 15ページでございます。基金管理費1億2,711万9,000円を市債管理基金積立金へということで、この部分につきましては子育て支援、それから生涯学習サロン整備等に当たりまして、合併特例債を使われる、その合併特例債の真水分、市が一般財源等として負担する部分のところに充当するというので、地域振興基金から市債管理基金積立金へということで1億7,211万9,000円でございます。その下は財源更正、子育ての関係のほうで520万円と、それから生涯学習サロンの関係で71万3,000円、それぞれ財源更正とされております。地域振興基金から変更ということになり、一般財源を減額ということになります。この合計をしたものが1億3,303万2,000円で、ページをめくっていただいた歳入側になりますが、12、13ページのほうです。地域振興基金からの繰入れということで、今申

し上げました1億3,303万2,000円を入れるということと併せて、当初では一般財源としておりました先ほどの591万3,000円加えたものを基金で対応することによって、実質の一般財源の支出を減額するという内容になっております。

説明は以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） 都市整備、石田課長。

○都市整備課長（石田 敦史） 先ほどの歳出14ページ、15ページのほうを同じようにご覧いただきたいと思います。1つ目の枠の目の5、財産管理費のほうでは、基金管理費の市債管理基金積立金の1億2,711万9,000円の増額補正のうち、都市整備課に係るものは7,647万9,000円の補正です。これは新年度予算のほうでということで、アイティ4階フロアの一部を市が取得する際に発行します合併特例債の償還に係る一般財源相当額を、地域振興基金で予定していたものを市債管理基金へ積み替えるものでございます。

次の目34、地方創生推進事業費のほうでは108号議案の一般会計補正、これは第12号で提出しています子育て総合支援拠点等整備事業の財源を、一般財源520万円の財政調整基金から地域振興基金に財源更正することとしております。

続いて12ページ、13ページの歳入のほうをご覧ください。1つ目の枠ですが、目1、財政調整基金繰入金では、財政調整基金繰入金591万3,000円の減額補正のうち、都市整備課に関連するのは先ほど申しました520万円の減額補正です。

次の目の地域振興基金繰入金1億3,303万2,000円の増額補正のうち、都市整備課に係るものは8,167万9,000円の補正です。これは先ほど歳出のほうで説明いたしましたが、市債管理基金への積替え財源及び財源更正を行ったものでございます。

説明は以上です。

○分科会長（浅田 徹） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

○委員（青山 憲司） よろしいですか。

○分科会長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 今の具体的な中身と違うかも分かんですけど、関連するんでお聞きするんですけども、この新たな補正について市長は説明で、ふるさと納税を充てるという答弁があったように記憶しとんですけど、それによって市民負担はゼロになるということなんですけども、この予算の組替で市債管理基金を今の地域振興繰入金で、地域振興基金に繰入れをしていく、こっちで予算対応するということの説明だというふうに理解しとんですけど、そのふるさと納税をここに使って市民負担がゼロになるというその考え方、方針ですね、この辺りの取り方、考え方、財源としての考え方についてはどういうふうに受け止めたらいいいのか。要するに子育て支援に係るふるさと納税で寄附していただいた方の思いを子育て支援についでいう、それはよく理解もするんですけども、財源としての扱いが、例えば今度のアイティの4階に設置を予定されている子ども・子育て支援の総合拠点の整備だけに、それが当たるといふふうには理解できないというのか、しにくいんですけども、ほかにも子育て支援っていうのはいろんな費目というのか、あるわけで、だから、そのところの考え方っていうのをちょっと、財源の使い方っていうのかね、在り方っていうのをちょっと教えてもらえませんか。

○分科会長（浅田 徹） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 最終的な財源、今ふるさと納税が議題になっているわけでございますけれども、ふるさと納税をどの事業に具体的に充当していくかということにつきましては、環境経済課で従来から決めているというものではございませんので、その辺は財政なり市全体の中で決められることであらうかなというふうには思います。その前段として、寄附者の方からそれぞれ今言った子育てだとか、例えば小さな世界都市だとか、それぞれのところの事業に活用くださいということで頂戴しております。その中にも当然細分化した事業があるわけで、どれに充てなくてはならないという部分についてもこちらで決めれるというのではなくて、大きいくりの中では寄附者の方の意向に沿っ

た使い道になっているのかなというふうに思います。

○委員（青山 憲司） よろしいですか。

○分科会長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 財源そのものは、こちらの建設のあるいは所管ではないんですけど、ふるさと納税の分の、例えば子育て支援にというふうな費用、費用というか、ご指定を受けてやる分っていうのは前年度のあれでいいんですけども、大体何%ぐらい、今の寄附金額からしたらあるのかね、指定を受けてやってるっていうものが分かれば、ちょっと教えてもらいたいと思います。

○分科会長（浅田 徹） じゃあ、午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） ふるさと納税の前年度の寄附総額6億8,700万円に対しましての「未来を拓く人を育むまちづくり」、いわゆる子育て、教育環境の充実に向けた寄附額につきましては、そのうちの1億4,964万7,000円になりますので、おおむね2.2%が前年度につきましては、全体の中で子育てにっていう部分に該当するかと思います。

○分科会長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） この子育ての未来を育成するというか、未来を見据えた寄附額っていうのは使い方としては、どういったものが具体的にはあるんですかね。そこまで把握できてます、分かんない。分かんなかったらいいですよ。

○分科会長（浅田 徹） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 申し訳ございません。
今の部分については把握できておりません。

○分科会長（浅田 徹） ほかにありませんか。
村岡委員。

○委員（村岡 峰男） ふるさと納税を充てるから市民負担はゼロだという市長の言い分なんですけど、ふるさと納税といいながら、実際この予算上では地域振興基金ですね、地域振興基金を充てると。地域振興基金っていうのは、今、総額三十何億円か、40億円あるのかな。そのうちで、ふるさと納税でためた地域振興基金に入ったふるさと納税っていうの

は、どのぐらいの率がある。

○分科会長（浅田 徹） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 今までの累計の率につきましては、今、手元に数字を持っておりませんが、ちなみに比較にはなりますけれども、昨年度末のふるさと納税のいただいた金額、先ほど申し上げました6億8,721万4,000円に対しまして、そのうち地域振興基金に入れておりますのは6億7,706万4,000円ということで、9割以上は地域振興基金の中に積み立てて、それ以外といたしましては、例年同じ金額というわけではないですが、ほぼ同じ金額推移をしてるのが、コウノトリ基金積立金に1億円と仲田光成のほうに15万円とかそういったものを、ふるさと納税から積立てをさせていただいております。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） ということは、ふるさと納税としていただいた額は全部、全部いうんか、大方がここに入って、ほんで返礼品だとか事務費の関係はどっから出とんですか。このふるさと納税からではなくて、別の科目から出てますね。

○分科会長（浅田 徹） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 今、議員がおっしゃいましたとおり、別科目から出ておりますので、大体おおむね寄附いただいた分の半分ぐらいが残る程度かなというふうに考えております。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） そうすると、いただいたお金はまるっぽ基金に実際に使いながら、その経費っていうのは別の会計から出してくるという、この会計の処理っていうのはええんか。

○分科会長（浅田 徹） 坂本部長。

○環境経済部長（坂本 成彦） 実は、昨年度までは寄附額もそんなにたくさんじゃなかったっていうこともあって、いただいた寄附は全部積み立てる、出すほうは一般財源で出すと、要は経費のほうはという事務処理をしておったんですけど、昨年度、寄附額が大幅に上がるということがありましたので、その分の半分に当たる一般財源を準備するのが大

変だということが出てきたものですから、もう昨年度からはいただいた額、使った額、差引きを積むという形に変えさせていただいてるんで、実際に手元に残ったものが地域振興基金に積み立てられるという、そういうふうに理解していただいたらありがたいなと思います。

○委員（村岡 峰男） 昨年度からね。最後、ほんなら。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） となると、昨年度、課長が言った6億数千万円っていうのは、それはいただいた総額でしょ。それは昨年度ではないのか。（「昨年度です」と呼ぶ者あり）昨年度ですね。だから、昨年度は仮に6億円もらったら、返礼品や事務費で使った分を引いて基金に入れるということだけでも、6億数千万円を昨年度は地域振興寄金に入れて、あと、ちょっとどっかに入れたというのは、昨年度でなくて一昨年か、でないと、昨年度がそうしたんだったらお金合えへんちゃう。

○分科会長（浅田 徹） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 少し私の言い方が足らずだったと思います。昨年度頂戴したのが6億8,721万4,000円で、その後、必要な支出を除き、本年度の当初には、そのうちの約半分程度の3億433万5,000円を財源というか、として持っておるということになっております。

○委員（村岡 峰男） 三千何ぼになってますか。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 3億433万5,000円です。（発言する者あり）

○分科会長（浅田 徹） ほかに質疑はありませんか。

○委員（村岡 峰男） ほんなら、もう1点だけええですか。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 昨年度6億8,000万円っていうのは、恐らくふるさと納税としては最大、最高額と思うんですが、担当としてどうですか、来年以降の見込み、予測は。

○分科会長（浅田 徹） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 今、議員がおっしゃいましたように、昨年度、年間で約5億円以上伸びがあって、6億円という金額になりました。現在、9月まで進みつつある中で、あくまでも対前年の比較になりますけども、この月までの合計は大体1.7倍だったかな、1.6倍程度で上向きに推移しております。これが、この後もずっと続くかどうかということまでは分かりかねますけども、同等、またそれ以上を担当課としては目指して、PRや努めていきたいというふうに考えています。

○分科会長（浅田 徹） よろしいでしょうか。暫時休憩します。

午後1時19分休憩

午後1時21分再開

○分科会長（浅田 徹） 休憩前、また分科会に戻します。

今言いましたように、今の133号、一応今、質疑は出ました。108号との関連もございます。その辺の当局への質問の洗い出しということで分科会、進めていきたいと思います。

ただ、この中で非常に今、質疑といいますんか、質問が言わば財政当局、分科会をまたぐというふうなことの中で、今、午菴課長のほうからお答えもいただいているわけですけども、市長のほうも24日の本会議でありましたように、さらにこの丁寧な説明をさせていただきたい、さらにはその作業と一緒にというふうなことの中で、しっかり審議を続けていくということも発言されております。そのことに関しては、特に今日、さらに皆さんそれぞれの、各委員の皆さんが一般質問からそれぞれ分科会、委員会、さらには当局も新たな議案として出されましたことにつきましても、この分については回答いただけてない。またこの分についてもさらに深めたい。今2課しかいらっしゃいませんけども、その分で最終的にはまとめを行っていくということになります。そのことで今、二方のそれぞれ部長もおられますので、もう少しこの辺が回答もらってないと。今その辺の洗い出しの中で、自分がもう少し疑問を持って

おられることがありましたら、それぞれまた挙手をされて質疑というふうなことに移行していきたいと思います。

○委員（青山 憲司） よろしいですか。

○分科会長（浅田 徹） じゃ、青山委員。

○委員（青山 憲司） 昨日、事務局のほうからメールでいただいた、今回の補正予算の継続によって影響の出る部分っていうのが、こちらにも知らせてもらったんですけども、そここのところの説明をちょっと簡単にお願ひできますか。環境経済部と都市整備部で今回の補正予算が継続審査となることによる影響について、ちょっと説明をお願いしたいと思います。

○分科会長（浅田 徹） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 環境経済課分となりますと、中心市街地活性化事業費ということで330万円の増額をお願いをしとったものがございます。これは、イベントがたくさん中止になってきている地域の元気があまり出てないということで、11月。

○委員（青山 憲司） ちょっと、昨日、資料送ってくれたら。それ、みんなに見てもらおうようにしたら。

○委員（松井 正志） 一般会計補正予算継続審議に伴う影響について、こういう文書もらっとるけん。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 僕ら、ちょっとまだ……。

○委員（松井 正志） もらってない。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 自分の分だけ、持ってるだけ。

○委員（青山 憲司） ああ、そうか。ちょっとそれ、みんなに見てもらって、今回の影響分。昨日送ってくれたら。

○事務局主幹（小林 昌弘） Side Booksのほうにも入れておりますので、今、通知します。

○委員（松井 正志） でも、こっち、あんたらは持っていないちゃう。これ使ってもらったらええ。

○委員（芦田竹彦） Side Booksですね、い

や、委員長が。

○分科会長（浅田 徹） いやいや、ちょっと待って。いやいや、やります、やります。ごめんよ。（発言する者あり）

どうぞ。

○環境経済課長（午菴 晴喜） それでは、お手元の資料3ページをご覧ください。環境経済課分といたしまして、まず上段でございます。地域おこし協力隊推進事業費ということで、たくさんの応募の方があり、合格者につきましては面接をしながら随時決めていくということになりますけども、その新しい地域おこし協力隊員の活動費、報償費等の増額の要求をさせていただいております。内容ですけども、10月委嘱分まで6人、現計予算7人分で、今のところ何とか応募はたくさんあったんですけども、実際に委嘱時期等を見る中で、多少承認が、予算のほうが遅れても執行はいけるかなというふうには考えておりますけれども、この後11月以降にはまた次の委嘱を、複数人を予定をしておりますので、やはり補正予算の承認をいただかないと不足が発生してくるということで、記載をさせていただいております。

2段目の中心市街地活性化事業費につきましては、各種イベントが中止になる中で地域の元気がちょっと衰退っていうか、後退してるいう中で、地域のイベントを11月の土日をめどにというふうなことで考えておりました。屋外でのイベント、当然コロナの収束というのも条件になっておりますけれども、そういったものが、予算がないと執行時期が遅くなってしまう、またはあるいはできないという可能性があるということで、2件、記載をさせていただいております。（発言する者あり）

○分科会長（浅田 徹） ほかに。

青山委員。

○委員（青山 憲司） あとのワーケーション、観光事業費はまた別。

○環境経済部長（坂本 成彦） ちょっと僕らでは正確には答えられないんで。

○委員（青山 憲司） ああ、そうか、そうか。はい、

いいです。

今の、よろしいですか、中心市街地活性化のイベントってというのは具体的に何か、今、中止にもうなったやつがあるんかも分かんないですけども、具体的にあれば教えてってください。

○分科会長（浅田 徹） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 内容につきましては、今から考えていこうという段階でございまして、例えば屋外で映画をしてみるとかっていうような、密にならないような方法でというような中で、できることはないのかってということも含めて検討していきたいなということでございます。

○分科会長（浅田 徹） 坂本部長。

○環境経済部長（坂本 成彦） 今言いましたようにウィズコロナ、コロナのこういうときでもできるようなイベントの体制を市主催で実験的にやってみよう、それによって民間の方のまたこれからの活動も活発になってくれればということで予算して、実行委員会を組織していただいて、委託をする予定ではいるんですけども、その予算がないので、まだ動きが取れないという、そういう状況にあるということでございます。

○委員（青山 憲司） ああ、なるほど。ということは、これは新たな事業計画に基づく予算が執行できないということで、今まで毎年やってきたイベント。

○環境経済部長（坂本 成彦） ではないです。

○委員（青山 憲司） ではないということだね、分かりました。

○分科会長（浅田 徹） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 都市整備部のほうですけれども、3ページをお開きください。3ページに、一番3ページの下の段になりますけれども、道路維持事業費、橋梁長寿命化事業費の関係です。利用者の早期の安全確保が必要でありますので、補修工事の設計を早急に発注し、年度内完成を目指しているところでございます。この設計を基に次年度の国費の要求を行いますので、それに反映させるためには、早急な今の設計業務の着手が必要ということになります。遅れることによって、国への予算要求がで

きなくなるというようなことが懸念されております。以上です。

○分科会長（浅田 徹） この件は青山委員、よろしいですか、今の説明で。

○委員（青山 憲司） はい。

○分科会長（浅田 徹） ほかに洗い出しということで、それぞれ個々で対応していただいております議事等について、まだこの分は回答いただいてないという、頭出しですので、建設経済だけにとどまらず、予算、これは総務に係るんでしょうか、そういうところについて少し幅を持たせて、ここでは洗い出しということですので、関連することがあれば。ただ、中心はできましたら建設経済、今回の中での審議についての分を重点的にはありがたいと思いますすけども。

松井委員。

○委員（松井 正志） 洗い出し分について発言したらいい。

○分科会長（浅田 徹） もちろんそうです。

○委員（松井 正志） そしたら、まず、ここで答えられたら教えてほしいんですけども、さとうさんが4階を寄附するとか使用貸借するっていう提案あったことに対して、それをするためには何か移転費用ということで、1億7,000万円必要だというふうな発言あったんですけど、その1億7,000万円の内訳っていうのはどういうものが幾ら、どういうものが幾らっていうのは分かっていますか。

○分科会長（浅田 徹） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 移転に要する費用は、総額でしか聞いておりません。今回、4階のフロアを撤去する、そしてまた4階フロアから別のフロアに行って、そこをリニューアルされるという、そういった費用トータルで1億7,000万円で、ちょっと内訳については聞いてはおりません。

○委員（松井 正志） もし分からないということで、これについては質問事項には記載していただきたいんですけども、よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

○分科会長（浅田 徹） 暫時休憩します。

午後 1 時 3 2 分休憩

午後 1 時 3 3 分再開

○分科会長（浅田 徹） 継続します。

青山委員。

○委員（青山 憲司） よろしいですか。都市整備と今の環境経済に関わることでなくっても。

○分科会長（浅田 徹） その辺がここで。

○委員（青山 憲司） まあまあ、じゃあ、都市整備等に関係する。

○分科会長（浅田 徹） いや、でも、その辺は一応広くということですので……（「広く」と呼ぶ者あり）またがっても。ただ、ここで回答をもらえない分については……。

○委員（青山 憲司） はいはい。

○委員（松井 正志） これ、書いて出したらええんだな。

○分科会長（浅田 徹） ここに書くというか。

○委員（青山 憲司） 了解了解、分かりました。

○分科会長（浅田 徹） ここでやっぱり今、お二人の担当部長がおられますので、ここはその分でしょうか答えができないということですので。

○委員（青山 憲司） はい、分かりました。

○分科会長（浅田 徹） ペーパーで出すのはやぶさかでないということです。

○委員（青山 憲司） じゃあ、2 点ちょっとお尋ねしたいと。

○分科会長（浅田 徹） それは関係あることで。

○委員（青山 憲司） 関係あることです。

○分科会長（浅田 徹） そしたら、どうぞ。

○委員（青山 憲司） 関係ないことはちょっと外します。

○分科会長（浅田 徹） それはまた書いてください。（発言する者あり）

青山委員。

○委員（青山 憲司） ちょっと 1 点は、今回このアイティからさとう豊岡店が撤退することによる地域経済の影響を、できたら具体的に、分かれば教えていただきたいのと、もう 1 点は、これ、都市整備

部のほうで直接は関わってこないんかも分からないんですけども、もう既に 2 3 年経過したあのアイティの建物、今後、大型修繕にかかる費用として外壁の修理だとかで 1 億 8, 0 0 0 万円ぐらいかかると。ほかの空調だとかいろんな電気設備が、これもまた修繕に何千万かかかるというふうに伺ってるんですけども、都市整備部長から見て、あそこの建物に今後、何年、どれぐらい大型整備、大型修繕にかかってくる費用が、近々どれぐらいかかるかっていうのは分かりませんか。その今の外壁修繕以外に、もう大分 2 3 年たってるんで、建物の耐用年数自体はまだそんなにはないと思うんですけども、その辺で、もし今までの公共施設等で培われた知識があれば、今後 3 0 年経過ぐらいまでにどういう修繕が待ち受けてるのか、それに対して予算がどれぐらい要るのかっていうのが、もし分かるようでしたら教えただください。

以上、2 点。

○分科会長（浅田 徹） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 議会の要求資料からも、先ほど青山委員が言われましたように、2 0 2 2 に 3, 5 0 0 万円、2 0 2 3 年にまた 3, 5 0 0 万円、それから 2 0 2 8 年に 1 億 8, 1 6 0 万円の修繕計画は上がってるんですけど、これは、3, 0 0 0 万円以上の金額だけを上げております。細々としたのが毎年は出ておりますけども、大きなのと考えられるのは、あと、エスカレーターなんか、これは、ちょっと既に直されたかどうかは確認はしたいと思うんですけども、やはりエスカレーターあたりはひよっとしたらまた大規模修繕に入ってくるのではないかなということが、今の段階では考えられます。

○委員（青山 憲司） 2 0 2 2 年に 3, 0 0 0 万円と次、二千二十何年でしたか。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 2 3 年に 3, 4 9 0 万円です。

○委員（青山 憲司） 2 3 年に 3, 4 9 0 万円。ありがとうございます。

○分科会長（浅田 徹） 坂本部長。

○環境経済部長（坂本 成彦） 地域経済への影響ということなんですけど、なかなか定量的な話は申し上げられないのかなというふうに思います。影響があって、幾らということなんですけど……（「具体的なもの」と呼ぶ者あり）分からないというふうに思ってますけど……（「ああ、なるほど」と呼ぶ者あり）直接的に今、直近で考えられるのは、例えばそれに伴ってアイティの中の個々の店舗が立ち行かないというふうなことになりますたら27店舗ですか、における雇用三百数十名というふうなことが言われてますけれども、そういったことの雇用が失われる。このことが直接的には一番最初に出てくる危険かなというふうに思っておりますんで、今コロナの中で、とにかく雇用を守るとする市の施策を展開してる中で、そういうことが起きてくるとすると非常に危機的な状況になってくるなという、ちょっとそういう印象としては持っております。

○委員（椿野 仁司） ちょっと関連でいい。

○分科会長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） さっき青山議員が質問の中で、将来の大規模修繕っていうお話があったけど、たしか岡本議員の一般質問でその話があったときに、それも今の年数と金額を答えてて、たしか床を持つとられる権利者が積立てをしておられる。単価61円だったかな。（「はい」と呼ぶ者あり）それを積み立てしておられて、豊岡市だけは積立てはその場の答えではないけれど、そういう大規模修繕が起きるときには応分の、市としての対応は当然、議会に諮って予算を組みたいというふうな、まあまあ、正確には覚えてないんだけど、そんなようなあれがあったと思うんだけど、やり取りがあったと思うんだけど、それ、ちょっともう一度、私、今、確認の意味でどうだったか。

○分科会長（浅田 徹） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 今、椿野議員が言われましたように、床を持っておれば1平方メートル当たり一月61円の修繕積立金が発生しております。この修繕積立金は、先ほど言われましたように、豊岡市は予算上、積立金とすることはできないので、

その修繕が必要になった時点で、それを予算化して議会のほうにお認めいただいてから、その額をまとめて払うと、こういったようなやり方を取っております。ちなみに、今7階の市民プラザのところの面積を掛けますと、年間約170万円になります。本来、市民プラザをあそこに整備したのが2003年になりますので、2003年から以降、本来なら170万円ずつを払っていかねばならないんですけど、それはいたしておりません。あくまでも必要なときにまとめて払うと、そういったことをしております。（「3,000万」と呼ぶ者あり）

○分科会長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） とすれば、もしも分かれば、床を所有されてる方々が、今言う年数と月、平米61円の単価を掛けられて、今、一体その基金はどれぐらい積立てされてるんですか、分かれば、今。

○分科会長（浅田 徹） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 今の積立て基金につきましては、2019年度末で4億2,700万円。（「なるほど」と呼ぶ者あり）全体であります。

○委員（椿野 仁司） ようけ積み立てとんなるな。

○委員（青山 憲司） 大方さとうのあれだわな。

○委員（椿野 仁司） そうね、床面積、一番ようけ持つとるでな。

○委員（青山 憲司） 一番大きいもん。そら、そうだ。

○委員（椿野 仁司） いいですか。

○分科会長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 最後、部長ね、私も質問事項に書いといたらいいいのかなと思うし、どうするのか分からんけど、それでいくと今の大型が、大きい修繕、メンテナンスがそれぞれの年にやってくるんだけど、今のこのやり方でいくと、ほぼ市が応分の負担をすることはちょっと置いて、今後起こり得ることはそういう積立金でカバーできるということですか。

○分科会長（浅田 徹） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 今4億2,700万円あると言いましたが、その修繕の内容にもよ

ろうかと思しますので、今ちょっとこの場では即答はしかねるんですけども……（発言する者あり）はい、やはり積立金の中での修繕というのを考えていただくのが最善だというふうに思っております。

○委員（椿野 仁司） 分かりました。結構です。（発言する者あり）

○分科会長（浅田 徹） 継続していきます。

ほかに洗い出しというふうなことで、今お答えもあります。しかし、さらにはない分とか、それぞれ個々にペーパー出していただくわけですけども、ここ2人の部長さんで、さらに今の質問を深めていただくということであれば、さらにお願いしたいなと思ってます。

ほかの……（「会、関連」と呼ぶ者あり）関連することで、つまり、分科会を超えても、もしもこういったお答えできるようなこともあればということだと思いますので、それも含めてございましたら。

○委員（村岡 峰男） じゃ、いいですか。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） この件いいですか。分かる範囲で答えてくれる。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 市民への皆さんへという、はい。

○委員（村岡 峰男） はいはい、さっき言った件ね、核店舗としてさとうを迎えてというこの表現ね、これは事実と反するというふうに思うんですけども、この文章の中で事実と違ったり、これはどうかっていうのがあったら、言ったってもうしゃあないのか。言ったってもうしゃあないです、もう金になっちゃったとてそういうことだったら、もう。

○委員（椿野 仁司） どの部分。

○委員（村岡 峰男） 2ページ。

いや、同時にこの事実かどうかという問題と、今言ったってもう、これは出ちまっとなってもう遅いかなということだったらね、なのかどうかも含めて。もう遅い。

○委員（青山 憲司） もう遅い、出ちゃったから。

○都市整備部長（澤田 秀夫） もう発送はしてますので。

○委員（村岡 峰男） 遅いがな。

○分科会長（浅田 徹） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） アイティの中でさとうの占める面積なんですけど、やはり床面積としたら約8割程度の床をさとうが現在、持っておりますので、その平成9年の11月オープンのと時から8割程度の床を持っていますので、やはり核店舗としてという位置づけは間違っていないというふうに私は思います。

○委員（村岡 峰男） いやいや、核店舗としていうのは、それはええ。さとうを迎えてというね、さとうを迎えてじゃなくて、さとうは最初から計画段階から入っとるわけだから、迎えてという表現はね。

○分科会長（浅田 徹） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） もともと、あそこなさとうがありました。面積的には今よりもすごい少ない店舗面積だったと思いますけども、それが保留床の床を買ったことによって、先ほど言いました全体の8割程度の床を所有されてるということになりますので、その迎えてという表現がどうかと言われてるんですけども、そもそもこれまで持っていた自分の所有面積より相当大きな面積まで床を買っていただいているということです。別段、間違いではないというふうに思います。

○委員（村岡 峰男） ええですか。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 買っていたたんじゃなくて、さとうの要求でしょう、あそこで中心になって商売するというね。だから、買っていたっていう下手に出るんじゃないくて、最初からキーテナントとして計画段階、ずっと入ってきたということが僕は言いたいんですわ。だから、今回の問題もそういう認識の上に積み上げていかないとねっていうふうに思っています。それから8割って、床はね、現在はそれはないでしょう、7階は豊岡市が持つとるわけだし、店舗の8割という意味ですか。

○都市整備部長（澤田 秀夫） そうです、はい。

○委員（村岡 峰男） 店舗の8割。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 1階から4階までと

いうことです。

○委員（村岡 峰男） 店舗の、その河谷だとか、例の。

○都市整備部長（澤田 秀夫） ほかの一般の方も持っとられます、そういう意味です。

○委員（村岡 峰男） ええ。

○分科会長（浅田 徹） 暫時休憩でよろしいですか。

午後 1 時 4 7 分休憩

午後 1 時 4 9 分再開

○分科会長（浅田 徹） 再開します。

何か言ってくださいな。

○委員（青山 憲司） こっちだけ質問しとって悪いな、申し訳ない。

○分科会長（浅田 徹） いや、もうそれはそのための今日は、言わば、さらに議論を深めていくということの、どんどん出していただかんことには、これは分科会としても困りますので、今日はしっかりまたそれを当局に投げつけて、それはしっかり 4 日までの時間をかけて、それ回答いただくと、それは市長がそういうふうなことを言ってますんで、しっかり一緒に考えたいということ。

○委員（青山 憲司） 市長はよく、今回の合意が決裂したら、さとうは豊岡店を撤退するというふうな話をよく聞いてきたんだけど、万が一そういう話があったとしても、そのことを想定しても三セクは潰れる、三セクの 7 億円はもう返ってこないという話をよくされるんだけど、万が一のそのときは、例えばさとうが撤退するっていうことだけど、そのさとうはそういうことができるのかどうかっていうのは、三セクの今の債務も含めてまだ相当あるよね、三セクは。三セク自体がそういうことになる潰れるというふうにされてるんだけど、それで済むのかなっていうのがちょっと気になったんだけど。それはさとうの決断でされることであって、債権者である銀行だとか豊岡市だとかの同意もなしにそういう今の経営破綻っていうか、民事再生をするっちゃうことになるのかなっていう。要するに、

経営破綻しますというふうな感じでもう書かれてるわね。だから、さとうが独自の会社の方針として撤退をしますと、そのことはそのこととして万が一あったとした場合に、三セクがそれによって経営破綻すると。そのときに今の後のことは知りませんということだね、その三セクが破綻することについて、それで終わることができるのかなって、ちょっと疑問に思うんだけど、どうですか。

○分科会長（浅田 徹） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 三セクが銀行への返済ができなくなって破綻します、そうすると銀行のほうで抵当で押さえていますので、まず、銀行が今の三セクの分、押さえてしまっていて、あるいは管財人か何かが売り払うとかそういうことになると思うんですけども、その中で結局まず銀行が取り分、取ってしまいます、残りの分。当然、市とさとうはもう劣後債になっていますので、三セクに対して一番最後、もし残っておれば、それは回収できると思うんですけども、ですから、さとう自体も撤退すると言って三セクが破綻っていうのは、それはできると思います。法的に何も引かかるようなことはないと思います。

○委員（青山 憲司） 今聞いたのはね、よろしい。

○分科会長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 平成 14 年に、18 年前に豊岡市が三セク会社に民事再生法適用するって言いましたね。そのときと、もし万が一逆になるわけですよ、今度は。そのときにやっぱり豊岡市や銀行は、あつ、豊岡じゃないわ、さとうや銀行は何とか再建の道を探ってくれというふうな話で合意を含めて再建に臨んでったわけだけど、今回の場合は逆になってくると。さとうはもう経営破綻して三セクはしてもいいと。ところが、市と銀行だとかはやっぱり何とか再生して駐車場の経営、運営を望むということになった場合、やっぱりその当時のさとうと市の信頼関係じゃないけども、そういったことも含めてね、駐車場が今回は破綻するだけじゃなくて、市民の活用してるさとう豊岡店がなくなるっていうことには、やっぱり相当影響があるっていうこと

を訴えていく必要があるん違うかなと僕は思うんだけど、どうでしょう。どう思われます。（発言する者あり）

○分科会長（浅田 徹） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 確かに今おっしゃるように、さとうが撤退するということは非常に市民にとっても、また、まちづくりにとっても影響は大きいです。（発言する者あり）はい、おっしゃるように大きいです。ですから、そういったことを避けるために、今回、市のほうから提案させている策でご検討願ってるんですけども、その策についても、確かに駐車料金だけでカバーできないかというような提案もいただいておりますけども、やはり駐車料金だけで負担軽減するのはどうしても限界があるので、結局、さとうが逃げてしまうと三セクが破綻してしまうというようなことになります。ですので、当然さとう自身がアイティから出ていってしまくと、アイティそのものがもう全く機能しなくなりますので、そういったことはぜひとも避けたいということは、当然、市民の皆さんにも十分お知らせはする必要があると思います。

○委員（青山 憲司） だからね。

○分科会長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） よろしいですか。やっぱり市としては、合意はどこまで固まってコンプリートされてるのか分かんないけど、今のアイティを建てたときからの経緯を含めて、三セクの破綻しかけたときも含めて、やっぱりさとうに対しても市からもっと今の何とかこれを継続するための働きかけっていうのは、もっとできなかったのかなっちゅうのがちょっと思うところなんですけどね。

○委員（椿野 仁司） 休憩してください。

○分科会長（浅田 徹） はい、休憩、暫時休憩します。

午後 1 時 5 6 分休憩

午後 2 時 1 3 分再開

○分科会長（浅田 徹） そしたら、休憩前に戻します。

一応、それぞれ質問の洗い出しということで休憩も取りながら、フリーにしてやってきました。一応このトークの時間につきましては終了とさせていただきますと思います。

それでは、当局の皆さん、大変ご苦労さまでした。あとは我々の作業ということにさせていただきます。また、いろんな質問がまとめて出ると思います。しっかりと一緒に考えていく、対応するということがよろしく願いをしまして、退席をよろしく願います。ご苦労さまでした。（発言する者あり）

それでは、委員の皆さん、いずれにしましてもこういう形で、お手元に配っておりますこの作業についてはどうでしょう。ある程度考えていただいて、一応正副のほうには、ちょっと暫時休憩を取りまして 4 5 分まで。

○委員（松井 正志） もうできましたよ。

○分科会長（浅田 徹） できました。

○委員（青山 憲司） 何が。

○分科会長（浅田 徹） いやいや、今の洗い出しの。

○委員（椿野 仁司） ほぼできとるで。

○分科会長（浅田 徹） もうできとったら、それは私ら、また作業するのに時間がかかるがな。

○委員（椿野 仁司） もうええは。ややこしいもん。

○分科会長（浅田 徹） そしたら、どうしまししょう。

○委員（松井 正志） もうできた人から帰るでええんちゃう。

○分科会長（浅田 徹） そしたら……。そうですね、悪いですけど、できた方から、もうできとるでっていう方がありますんでね。

では、その他ということも今日はこれに終始をさせていただくというふうなことで、その他、特になければここで分科会を終了させていただいて、特にこの洗い出しの終了された方からご確認いただいて。あとはただ、あとはもうこれをしっかり今回やりますんで、事務局お願いしますいうんじゃないで、厳しく言われてますので。

○委員（椿野 仁司） できたら、今度、委員会いつ

でしたっけ。

○分科会長（浅田 徹） 8日です。

○委員（椿野 仁司） 今日出た質問については、各委員で共有させてもらいたい。

○委員（芦田 竹彦） そしたら、皆さんこれに入れたら。

○委員（椿野 仁司） これで、これに入れてもらってください。

○分科会長（浅田 徹） そうです、そうです。これは、責任持ってきますんで、私らが直す、修正そのままだけをもう打ち出していきたいという、このことを作業としてやりますんで。

○委員（青山 憲司） これは今の今回の件、何でもええんですね。

○分科会長（浅田 徹） 何でもええ。

○委員（松井 正志） ほかの分科会に関係するものも出していただいて。

○委員（青山 憲司） ですね。

○分科会長（浅田 徹） 重複したら、それはまた当局が考えることなんで。（「はいはい」と呼ぶ者あり）

じゃあ、どうも皆さん、大変いろんなご意見ありがとうございました。終了します。よろしくお願いします。終わります。

午後2時16分閉会
